

2007年度 研究の国際化推進プログラム「研究成果の国際的発信強化」種目 報告書

|       |                                 |
|-------|---------------------------------|
| 研究代表者 | 所属機関・職名： 産業社会学部 教授<br>氏名： 文 楚 雄 |
| 研究テーマ | 1980年代以降の新語・流行語の研究及びデータバンクの構築   |

### I. 「成果発信」の目的・意義の概要

今回の国際的研究成果発信の目的・狙い、意義・必要性について、簡潔、明瞭に記入してください。

1978年に始まった中国の改革・開放は中国の政治・経済・社会・文化・教育・技術など各方面にわたり、前例のない変化をもたらしてきた。このすさまじい変化と比例するように、ことばの面においても空前の変化を見せている。新しいことばが次々と出現している。中国の専門家によると、毎年 1000 語以上の新語が生まれていると推測している。

この新語・流行語の増大には収集も解釈も追いつかないのである。この状況は、中国語の学習者ばかりでなく、中国に関わる研究者も最新の情報や資料を扱うときにたいへん頭を悩ませているのである。

従って、中国語の新語・流行語の日本語版のデータバンクの構築も喫緊の課題である。辞書の出版も待望していると考えている。この課題を、国際学术交流を通じて打開していきたいと考えている。

### II. 「成果発信」の成果と今後の展開計画の概要

今回の国際的研究成果発信で得られた成果、目標達成度、今後の展開計画について、ポイントを絞り具体的、簡潔に記入してください。

これまでに研究代表者は 2004 年、2006 年、2007 年に中国の新語関係の学会に出席し、研究発表も行い、中国との国際学术交流を続けている。2007 年度の後期では、中国の新語・流行語研究の若手トップ研究者・亢世勇教授を立命館大学に招聘し、研究会で「中国語の新語・流行語の最前線 辞書編纂の現状と今後の課題」を題して報告発表をしてもらった。この研究活動を通じて日本の研究者との意見交換ができ、日中双方の研究状況やそれぞれの関心事などについて理解が深められた。

亢世勇教授は中国の新語・流行語研究の最前線を走る若手研究者で、パソコンの駆使による新語の収集はすでに 4 万数千語を集めており、データバンクも構築している。また、精選した中国最新最大の新語大辞典も 2003 年に中国辞書出版大手の上海辞書出版社よりから出している。

亢世勇教授の協力により、最新最大の中国語の新語・流行語の日本語版のデータバンクを構築していくと同時に、新語辞書を日本で出版することも計画している。

本ページはホームページに公開いたします。1 ページに収めてください。